

(1) 工事コストの低減

コンクリート道床軌道打設施工方法の見直しによるコスト縮減

帝都高速度交通営団 11号線軌道敷設工事

[施策の概要]

地下鉄トンネルへの軌道敷設方式は、コンクリート道床方式とバラスト道床方式の2種類に大別され、軌道敷設条件等により両者を使い分けている。何れの場合も、レールを荒配置した後の軌道整正作業は、基準どおりにレールを固定しなければならない作業であるため、高い精度が要求される。バラスト道床の場合、軌道整正作業をある程度行った後、最終調整はバラスト突き固めに併せて行うため、軌道整正が多少甘くても修正可能であるが、コンクリート道床の場合、コンクリート打設後のやり直しがきかないことから、軌道整正作業はバラスト道床以上に時間を要する作業となる。

従来の軌道整正作業は、レールの下に一定間隔で固定されたコンクリートブロックとレールの間に木製のくさび(木けい)を入れ、この木けいで微調整を行っていた。一度整正しても、コンクリート打設までの間、軌道モーターカーの通過等があり、その度に整正が必要なことから、整正に時間のかかる従来工法では、軌道敷設作業に占める軌道整正作業の割合が大きかった。

今回、軌道を簡単に整正できる仮受装置で固定し、その調整機能を有効活用することにより軌道整正作業の大幅な縮減が可能となり、労務費等の低下に結びつき、コスト縮減を図ることができた。

[施策のポイント]

- ・ 軌道敷設工事における軌道整正の作業効率が向上することにより、作業時間の短縮及びコスト縮減を図ることができる。

[施策のイメージ図]

